

原資料の構造を反映したデジタルアーカイブの構築

田中 僚

近年、「デジタルアーカイブ」という言葉は一般に浸透しつつあり、様々なデジタルアーカイブが公開されている。デジタルアーカイブが対象としているアーカイブズにおいては、資料の出所情報と資料構造上の位置情報を理解する事が重要である。しかし現在のデジタルアーカイブは利用者が資料構造を理解できるように構築されていない。その原因としてキーワード検索やカテゴリ検索といった資料構造を無視したアクセス手段を用いていることが挙げられる。そこで本研究は、利用者がデジタルアーカイブにおいてアーカイブズの資料構造を理解できるようにすることを目的とする。対象とするアーカイブズは「図書館情報学アーカイブズ」とした。

図書館情報学アーカイブズとは図書館短期大学や図書館情報大学など、筑波大学が所有する図書館職員養成機関の資料を階層構造として独自に編成したアーカイブズである。本システムは図書館情報学アーカイブズの資料構造をシステム上に忠実に反映するように構築した。資料構造に沿って1つ下の階層に存在する資料へのみアクセスを制限することによって、利用者は必ず資料の構造の上位から下位に順番にアクセスしなければならない。このアクセス手段により、利用者はアーカイブズの資料構造を意識して資料を閲覧することになる。

利用者が資料構造を理解できるかを検証するため評価実験を行った。実験ではシステムを15分使わせ、出所機関の資料構造を図示させた。資料構造の複雑さによらず利用者は資料構造を理解できるかを検証するため、単純な資料構造を図示する実験参加者をグループA、複雑な資料構造を図示する実験参加者をグループBとした。分析の結果、グループAの実験参加者は資料の上位下位関係と同位関係共に適切に理解し、グループBの実験参加者においても資料の上位下位関係は適切に理解することができていることが明らかになった。

以上のことから利用者の資料構造の理解において、資料への段階的なアクセス手段を用いることが有効性を示したと結論づけた。今後の課題は規模が大きく、複雑な構造を持つアーカイブズ資料にも対応できるように、ナビゲーションシステムを改良することである。

(指導教員 宇陀則彦)